2024 年度関東支部大会報告

大会委員長 小野 博（中央大学研究開発機構）
大会実行委員長 加藤 俊一（中央大学理工学部）
関東支部長 髙城 宏行（玉川大学文学部）

2024 年 10 月 13 日、中央大学後楽園キャンパスにおいて、グローバル人材育成教育学会第８回関東支部大会が開催された。関東支部大会は、コロナ後初の対面開催であり、本学会員、教育関係者、産業界の専門家など、参加者 60 名が一堂に会し、交流と学びの場が提供された。大会のテーマを「グローバル人材育成のフロントラインから未来へ〜産・学・官〜」とし、AI 技術の進展がグローバル人材育成に与える影響を、産学官の視点から深く掘り下げる機会となった。

大会実行委員長の加藤俊一教授による開会の辞に続き、２つの基調講演が行われた。

基調講演１では、中央大学理工学部人間総合理工学科の檀一平太教授が「英語教育と脳」をテーマに、英語学習と脳の関係について研究成果を発表した。英語力による単語翻訳時の脳の活動パターンの調査で、学生の英語習熟度により異なる認知過程があり、同じ教育環境を提供しても、学生間で習熟の差が出ることが明らかにされた。また、同学科では、留学の推奨や教員の意識改革を通じてグローバル教育の推進が行われ、約４割の学生がグローバルな活躍が可能なレベルに成長していることが報告された。

基調講演２では、上智大学応用データサイエンス学位プログラムの深澤佑介准教授が、「AI と共に生きる〜AI によるくらしの未来予想図とグローバル人材育成〜」のテーマで、AI 技術の進化とその社会への影響について解説した。ビッグデータの登場により、AI 自らデータより知識を学習する「データ駆動型アプローチ」へと進化したことで、外部知識を活用して広範な判断や生成が可能になり、日常生活の様々な場面で AI を活用する可能性が広がっている。その一方で、プライバシーの侵害や差別、フェイクニュースの懸念に対処するため、AI の仕組みや倫理的側面を理解し、説明を求める姿勢を育む教育が重要であると述べた。

基調講演の後、２つのパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッション１では、「共生時代の知の基盤を問う:グローバルコンピテンスの視点から考える知性と感性 人間の役割・機械の役割」をテーマに、加藤俊一教授がコーディネーターを務め、中央大学理工学部の難波英嗣教授と筑波大学芸術系の李昇姫准教授の２名がパネリストとして登壇した。難波教授からは、最新の自然言語処理技術が紹介され、AI が人間の知性や感性に迫る現状と限界について解説があり、

李准教授からは感性工学の視点から、AI が感性を理解し学習する可能性について見解が示され、グローバルな環境で活躍するために必要なスキルと AI の活用方法について議論がなされた。

パネルディスカッション２では、「この国は終わるのか？」をテーマに、本学会理事長の大六野耕作名誉教授（明治大学）がモデレーターを務め、古賀道夫氏（株式会社メタテクノ相談役・前会長）、磯康彦氏（一般社団法人日本旅行業協会訪日旅行推進委員会訪日政策検討部会座長・東武トップツアーズ前執行役員）、岡田誠司氏（明治大学常勤理事・元駐バチカン日本国特命全権大使、元駐南スーダン日本国特命全権大使）の３名がパネリストで登壇した。IT や AI の分野をはじめ、世界経済における日本企業の影響力の低下、さらには日本の国力が衰退している状況について問題提起がなされた。岡田氏は、日本が貿易を通じて発展してきた歴史を踏まえ、WTO などの世界的枠組みが各国の思惑によりまとまらない現状において、日本は TPP のように特定の国との連携強化が求められると述べた。磯氏は、インバウンドによる高い経済効果を期待し、外国人を地方に誘致し地域創生を促進することを提案した。古賀氏は、外国人労働者の受け入れにおいて、高い日本語能力（N1 または N2 レベル）の要求が障害となっている点を指摘した。さらに会場からは、日本の大学院に在籍する外国人留学生の多くが就職活動に失敗し、卒業後に日本を離れており、留学生に対する就職支援が必要との意見が示された。

パネルディスカッションの後の一般発表では、「AI と英語教育」、「高校の国際教育」、「大学の国際教育」のテーマに分かれて８件の口頭発表が行われた。並行して、英語学習における AI 活用、産学連携による学び、コンピテンシーの育成などに関する６件のポスター発表、そして賛助会員 4 社（五十音順：English Central JAPAN、EdulinX、エヌ・ティ・エス、ステライノベーションズ）による展示と発表が行われた。

閉会式に先立ち、関東支部総会および、「外国語教育実践研究専門部会」の設置について同部会長の内田富男教授（明星大学）より発表があった。閉会式では、大会委員長の小野博教授（中央大学）による挨拶の後、歌手の yuzuna さんが「未来へ」を日本語とミャンマー語で歌い参加者の感動を呼んだ。大会後の情報交換会および懇親会にも多くの方々に参加いただき、大変盛況のうちに終了した。

参加者による活発な質疑応答や広範な議論が交わされ、グローバル人材育成のための新たな知見を得るとともに、産学官の連携の重要性を再認識する貴重な機会となった。ご登壇、ご参加いただいた皆さまおよび、開催を快く引き受けてくださった中央大学に対し心より感謝申し上げる。

文責 髙城宏行